

病名	原因	手当の案	理容サロンでのケア・助言や提案
円形脱毛症	従来、「ストレス説」「ホルモン説」などが一般的でしたが、近年では、「自己免疫説」が主流となっています。アレルギー反応とは少し違い、体を構成している細胞のアポトーシス不全が原因で異物と誤認します。毛母細胞が異物と誤認されると排除しようとして攻撃され、障害をうけ脱毛します。C型肝炎剤、抗ガン剤などの副作用も発症の原因となる。神経質な人が多く、乗り物酔いを起こしやすい、頭が重い、肩凝りがある、手足が冷えやすい、下痢しやすいなど自律神経緊張を思わせる症状もあります。単発型（一つの脱毛班）は自然治癒する傾向にある。多発型は悪化傾向にある	内服療法、外用治療法、注射療法、物理的療法、心理的療法、局所免疫療法、補助療法などがあります その他に育毛剤、スチーマーによる加温頭皮マッサージ	カウンセリングによる会話もストレス解消に繋がる シャンプーや育毛剤による頭皮マッサージ ホットタオルによる加温 脱毛部が目立たないようなカット また、メイクによって隠すテクニック 疾患へ何らかの対処療法のアドバイス 病気の進行具合の観察
男性型脱毛症	男性ホルモンの毛根への攻撃による退化現象（5α-リダクターゼ）成長期が短縮し休止期が延長するため軟毛化して産毛状になる。すなわち「毛包のミニチュア化現象」 頭皮が脂っぽい体質に変化・フケが増える（脂漏性皮膚） 顎ヒゲや四肢の体毛が濃くなる傾向にある。一種の老化現象である	病院で処方 「プロペシア」 育毛剤	脱毛状態に合わせて育毛剤アドバイス（育毛シャンプー） 育毛剤の副作用を説明 エタノール外用（血管拡張効果） AGA専門医を案内 経過の観察
トリコチロマニア (抜毛症) 衝動制御障害 性癖の一種	「心の病」とも言われ、特に情緒不安定な時期である幼少期の児童に現れます。自覚症状はなく「癖」のような一種の心理的ストレスで起こります。毛髪に限らず、眉毛、まつげ、陰毛でも見られます。主な症状は自分で毛を引き抜き、手が届く範囲に不規則な形の脱毛症がある。明確な原因は不明で神経細胞と脳にも要因があるという研究結果。	心理的、精神的なストレスが積み重なり自分の毛を引き抜くので専門医（精神科・心療内科医）のカウンセリングが有効	脱毛症といっても、頭皮や毛髪に異常があるわけではありませんので育毛剤や発毛剤は効果がありません。なので家族を交えて「トリコチロマニア」であることを自覚してもらいます。髪型を変えたり頭皮マッサージによる気分転換などを提案
牽引性脱毛症	牽引による（ポニーテールなど）毛根への過度の負荷が原因で脱毛	頭皮への緊張状態を和らげると自然に回復	髪型（ポニーテールやピン、三つ編み）などが原因なので髪型のチェンジを提案する
脂漏性皮膚炎による脱毛症 (真菌感染)	皮脂で毛穴が塞がれることにより頭皮の常在菌（黄色ブドウ球菌・ニキビ桿菌・マラセチア）が異常繁殖し、その影響で毛根部近くまで炎症、脱毛におよぶ。紫外線の影響（変性）も深刻。ストレスも要因の一つ。皮脂や汚れが原因で表皮が中性、もしくはアルカリに傾き脂漏亢進となる。	皮膚科で処方 「ニゾラール」で外用。 抗真菌剤入りシャンプーで洗髪する	正しい洗髪方法を指導してフケ改善信頼できる皮膚科を紹介 「ニゾラール」の外用の仕方を指導 抗真菌剤入りシャンプーの案内
頭部白癬による (水虫) 脱毛症	白癬菌（水虫）による感染症で頭部だと重症。真菌感染なので抗真菌剤で治療。誤ってステロイド剤を外用するとケロイド化してケルズス禿瘡となる。完治には時間が必要。家族に一人でも水虫患者がいれば家族全員に感染する可能性がある感染力が非常に強いカビの一種。	白癬菌感染なので「トリツール」内服。専門医で治療する。	水虫菌と同じで家族感染します。頭部への発症は重症化なので徹底的に治療する。視察で初期に発見する（表皮の変化、爪の変化など）